

トヲ次年度ニ於テ提案セントス

女子部新設ノ件

近年女子教育ノ進歩ニ伴ヒ女子ノ専門教育ヲ受ケント希望スルモノ漸次其數ヲ加ヘ女子ノ美術教育ヲ受ケテ其身ヲ立テント欲シ本校ニ入學ヲ要求スルモノ尠至スルノ勢トナレリ 教育制度上最早此要求ヲ無視スルコト能ハサル時期ニ到達シタルモノト信ス之ニ應スル方案トシテハ男子ノ為ニ特設セラレタル東京美術學校ノ外ニ新ニ女子美術學校ヲ新設スルコト尤モ當ヲ得タル措置ナルベキモ容易ナラザル經費ヲ要シ實行困難ナルニ依リ代案トシテハ第一ニ既設ノ美術學校ニ男女共學制ヲ取ルニ在リ 第二ニハ既設ノ美術學校ニ女子部ヲ付設スルニ在リ 第一案ハ著手最モ容易ナレドモ男女共學ノ得失未ダ明ナラザル今日ニ於テ直ニ實行シ難ク第二案ハ既設學校ト同一ノ管理ニ置クカ故ニ經費ヲ要スルコト新設ニ比スレバ少額ニシテ足ルベク經驗アル教官ノ兼務及豊富ナル參考標本圖書ヲ共用スルコトヲ得ルガ為ニ其効果ハ却テ大ナルモノアラン 此趣旨ニ基キ本校ニ女子部ヲ付設サレシムコトヲ希望ス依テ是亦次年度ニ於テ其豫算ヲ計上スル所アラントス

雜件

生徒實驗ノ資ニ供スルタメ諸所ヨリ依頼ヲ受ケ製作ニ從事シタルモノ、中重ナルモノヲ舉グレバ左ノ如シ

依頼製作一覽

品名	數量	受託年度	本年度竣工	依頼者
御飾時計	壹個	大正七年度	竣工	東京市
黄金鼎	壹個	大正八年度	同	同

文房具	壹個	同	同	同	同
群芳譜	貳卷	同	同	同	同
三輪田眞佐子銅像	壹基	同	同	同	三輪田元道
詹天佑銅像	壹基	大正九年度	同	同	橋三郎
得能良介銅像	壹基	同	同	同	池田敬八
御食堂車内部裝飾用彫刻及螺鈿板	貳拾四枚	本年度	同	同	鐵道省
御紋付御釣燈籠	貳對	同	同	同	宮内省皇后職
青銅記名板	壹面	同	同	同	橋本辰三郎

『東京美術學校校友會月報』記事抜粹

東京美術學校近事 〔一九一八〕^卷 T・一〇^年・二・二八^日

○職員辭令

大正九年十一月十日

任東京帝國大學教授兼內務技師文部技師如故 敍高等官二等 內閣
〔同〕 十二日 講師 關野 貞

依願免本官 文部省 助教 大石 靖
同 十六日 講師 關野 貞

史蹟名勝天然記念物調査會臨時委員被仰付 內閣
同 二十二日 教授 白井 保次郎

依願免本官

同 十二月一日

教授 水谷 鐵也

彫刻科理事ヲ命ズ

同 十日

元教授 白井 保次郎

敍正五位 特旨ヲ以テ位一級被進 宮内省

同 十一日

教授 神木 健介

臨時蟻害調査事務囑託ヲ解ク 宮内省

同 十八日

石井 敏

任東京美術學校書記 庶務掛兼教務掛ヲ命ズ

同 二十二日

講師 渡邊 啓三

任東京美術學校教授 敍高等官七等 内閣

同 二十四日

助教 波根 義三

手工ニ關スル調査研究ノ爲群馬長野滋賀京都大阪奈良静岡ノ諸府

縣へ出張ヲ命ズ 但往復共十日間ノ事

同 二十七日

教授 沼田 勇次郎

同 小堀 鞆音

同 川合 芳三郎

陸絛高等官三等 内閣

同 藤島 武二

陸絛高等官四等 内閣

教授 神木 健介

大正十年一月十二日

本牧 太一

本校體操副科弓術指南ヲ囑託ス

同 十一日

助教 中村 勝治郎

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ズ

同 十三日

教授 子爵 黒田 清輝

社會事業調査會委員被仰付 内閣

同 十八日

助教 田邊 至

圖案科第一部第二部西洋畫擔任兼務ヲ免ズ

講師 辻村 延太郎

漆工製作法擔任ヲ免ズ

同 二十二日

教授 神木 健介

圖畫教員志望者ニ課スル用器畫法擔任兼務ヲ免ズ

助教 波根 義三

圖畫教員志望者ニ課スル用器畫法擔任兼務ヲ命ズ

助教 平田 榮二

圖書教員志望者ニ課スル日本畫擔任兼務ヲ命ズ

助教授 田邊 至

圖書教員志望者ニ課スル西洋畫擔任兼務ヲ命ズ

同 三十一日

敘正五位

講師 矢野道也

○職員動靜

○神矢教親氏 米國より英國に渡航せられたる氏の名宛は左記の通り。

%c/o Japanese Consulats General

1. Broad St. pl. E. C. 2

London, England.

尙同氏より本校長宛の近信中より左の一節を抄録す。

(前略) 目下 〔誤植と思われるが、原語不明〕 Engraving, Lhasing, Rarsing の三部に就て研究

致居候 次には他の部に轉じて可成全部に互り研究の豫定に有之候 日本の方法と似通ひたる點も有之候へ共大體に於て教授の方

法設備其他習ふべき點多々有之候、鋸、鉋を反對に使用するが如く鉛筆を削るにも掃除するにも其他種々反對の方向なる如く金工

上にて反對の方向になす事多き爲め實習上面喰ふ事も多々有之候 併し理論に適合せる事多く大いに學ぶべき點を認め居候、科

長其他の教員が特に懇切になして呉るゝには大いに幸と存居候

同校の他科は勿論金工科にても部により學生中男子よりも婦人の多き事に驚き申候 尙ほ一般に機械的なるを輕侮して極端に美術

的を尊重する點豫想外に被感候 學校以外にても (Made?) Hand Madry

のものを貴重視すること甚しく候 (後略)

○白井教授送別式 本校彫刻科教授同理事白井保次郎氏、今般辭職せられたるに付十一月二十八日同科職員生徒一同講堂に集りて送別式を舉行す。同式に於ける告別の辭等次の如し。

大村〔西崖〕教授告別の辭 白井君は二十有餘年本校に在勤せられて諸君のやつて居られる塑造の教授法も白井君が定められたので彫刻の今日の隆盛、諸君の勉強皆白井君の御蔭で塑造と云ふものと白井君といふものとは一緒に考へてもよいのであります。同君

は本校第一回の明^{〔明治二十六年〕}二十治六年七月の卒業生であります。その後白井君は石川縣工業學校の先生となり洋行せられて更に本校の教授

と成られたのでありますして學校としてもこの古い先生が御退職になられる事は甚だ惜しい事なのであります、白井君もこの後南畫漢詩の途に没頭せられ悠々自適して行かれるので藝術を打ち捨て

たといふのではない事は甚だ幸であります、どうぞこの後いつまでも御壯健であつて宜敷御指導あらん事を願ひます。

白井教授答辭 今大村幹事の御話は少々私を賞めすぎであります

が、實は今まで學校にをりますと職責上自分がしたいと思つて居る事も思ふやうに出来なかつたのであります、これからは自分の好きな繪畫の途を辿る考へで藝術をまつたく打ち捨てたのでは

ありません 時代の進歩と共に新しい方法技術と云ふものも生れてまあります、然し眞面目であり誠實であると云ふことに就いては古來少しの變りのない事でありますからどうかこゝに御出で

の諸君もこの眞面目と云ふ事を忘れずに誠實に勉強して頂きたいのであります、こゝの諸君も他日皆立派な藝術家になられる方々

でありますから、どうぞ永く永く御壯健に勉強せられん事を偏に願ひ上げる次第で、一言お別に臨むで申し上げてをきます。

高村〔光雲〕教授告別の辭 職員一同に代りまして私が一寸お別れの御挨拶を申し上げます。白井君の今般の御辭職は全く後進の爲めに自ら路を開かれる事は誠に立派な態度であると思ひます。まして白井君の日頃の得意である繪畫、書道等にこれから靜かに没頭せられることはこの上もなく結構な事であると思ひます。と同時に學校に功績も大きくそして趣味にも豊かな白井君が御退職になりますことは誠に残念な事であります。

今後大阪に御住ひになると云ふ事ですがこれは奈良に近い大阪を撰んでこゝで奈良の古藝術を御研究なさる御心組だろうと思ひます。どうぞ時々御上京下さいましてこれからも一同を相變らず御指導下さいます様終りに臨んでお願ひ致します。

中牟田〔三治郎〕生徒總代送別の辭

今白井先生の告別式に際して何より最初に御懇篤なる教へを辱ふしたことを心から感謝致します。永年の間専心後進者の教養に力められて近代吾國彫刻發達の頁を飾られたことは普く人の知る處であります。尙ほ聞く處に依れば先生は他にも藝術の境地を拓かれて既に三昧の域に達せられてゐるさうです。

今先生と袂別するに當つて實に名残惜しく思はれますけれども又已を得ません。今後益々御自愛あらんことと機會ある毎に宜しく教を垂れ給はんことを希ひ送別の辭と致します。

○工藝史研究室の新設 昨年十一月より本校に工藝史研究室を新設する事と成り、當分教務掛分室に併置したるが、同室は工藝史全般

に關する諸般の調査研究をなし、且つ工藝に關する圖書の閲覽に便する外工藝美術會と連絡して、講演出版等の研究報告を行ふ可く第一回の研究出版として、熊野新宮の神寶を「手箱と檜扇」と題し全部鮮明なるコロタイプ版とし、香取六角兩講師の解説を附し、正木校長の序文を添えて來る三月初旬發行す可しと。因に同室の出版物は眞に學術研究の爲めなれば、部數を極めて僅少とし、篤志者にのみ頒つ方針なり。

(本號表紙繪は同書の檜扇の一面なり)

○科外講義 矢代〔幸雄〕教授の毎週月曜の「美術史上の諸問題」は當分休講する事となれり

○鑛物文明展覽會の本校出品 本年三月二十日より東京教育博物館に開催の文部省主催鑛物文明展覽會へ本校圖案科、金工科、鑄造科、漆工科より各數十點の出品をなす事となり目下夫々製作中なり。

東京美術學校近事〔二〇一〕。T・一〇・五・二〇〕

○職員辭令

大正十年二月四日

(文部省在外研究員) 教授 鎌田 彌壽治

獨逸國ヲ在留國ニ追加ス(文部省)

同 年二月十日

(各通)

教授 岡田 三郎助
同 和田 英作

紋正五位

(各通)

教授 沼田 勇次郎

同 小堀 柄音

同 川合 芳三郎

同 藤島 武二

紋從五位

教授 神木 健介

紋正六位

教授 渡邊 啓三

紋從七位

同 年二月十二日

書記 増井 兼吉

除服出任^(任)

同 年二月十六日

教授 沼田 勇次郎

文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職ヲ命ス(文部省)

休職教授 沼田 勇次郎

本年二月二日付願海外旅行ノ件許可ス(文部省)

同 年二月十九日

教授 藤島 武二

紋勳五等授瑞寶章

同 年二月二十五日

農商務技手 戸塚 暢夫

任東京美術學校助教授

助教授 戸塚 暢夫

製版科製版術製版實習擔任ヲ命ス

同 年二月二十八日

助教授 田邊 孝次

圖案科第一部金工科鑄造科漆工科ニ於ケル豫備科理事兼務ヲ命ス

同 年三月一日

教授 矢代 幸雄

西洋美術史研究ノ爲滿二年間英吉利國佛蘭西國獨逸國伊太利國及亞米利加合衆國へ在留ヲ命ス(文部省)

同 年三月八日

書記 足立 芳五郎

同 年三月十日

除服出任^(任)

同 年三月十日

教授 島田 佳矣

大分縣主催第十四回九州沖繩八縣聯合共進會審査官ヲ囑託ス(農商務省)

同 年三月十四日

教授 島田 佳矣

學術研究ノ爲兵庫縣下へ出張ヲ命ス 但往復共九日間ノ事

同 年三月十七日

關野 金太郎

任東京美術學校助教授

同 年三月十七日

助教授 關野 金太郎

彫刻科木彫實習擔任ヲ命ス

同 年三月十九日

休職教授 沼田 勇次郎

歐洲へ私費渡航ニ付本日出發ノ旨届出タリ

同 年三月二十五日

長谷川 龍三

佛蘭西國及英吉利國滯在中東洋古畫ノ調査ヲ囑託ス

同 年三月二十六日

助教 戸部 隆吉

右病氣ノ處昨廿五日正午十二時卅五分死去ノ旨遺族ヨリ届出タリ

同 年三月二十七日

教授 矢代 幸雄

文部省在外研究員トシテ本日神戸港ヨリ英國へ向ヒ出發ス

同 年三月二十九日

教授 大村 西崖

學術實地指導ノ爲京都府奈良縣滋賀縣へ出張ヲ命ス 但往復共八

日間ノ事

教授 小林 萬吾

(各通)

同 清水 龜藏

學術實地指導ノ爲京都府奈良縣滋賀縣へ出張ヲ命ス 但往復共十

七日間ノ事

同 田邊 孝次

(各通)

書記 足立 芳五郎

同 石井 敏

生徒修學旅行ニ付京都府奈良縣滋賀縣へ出張ヲ命ス 但往復共十

七日間ノ事

○第三十回卒業證書授與式 三月廿四日午前十時本校大講堂に於て舉行さる、式は卒業生、職員、來賓の着席するや正木校長の式辭に依つて始められ、松長〔校〕より卒業生一同の卒業證書を各科總代に授與し了るや、一場の告辭を述べられ次いで文部大臣代理澤田文部書記官は次の祝辭を朗讀せらる。

〔文部大臣中橋徳五郎祝詞および卒業生鶴飼康次答辭省略〕

式の前夜、來賓に卒業製作の觀覽を乞ひ、式全く終へたる後記念攝影を成し、新舊卒業生は校内俱樂部に於て懇親會を催したり。當日は晴天なりしかば朝野の來賓陸續として來會され、頗る盛況を呈せり。尙本年度の卒業生の科別人員併に卒業生姓名及卒業製作目錄次の如し

卒業生科別人員

科名	本科	選科	計
日本畫科	二〇	三	二三
西洋畫科	三三	二	三五
彫刻科	四	一	五
木彫部	一	二	三
圖案科	八	〇	八
第一部	三	〇	三
第二部	四	〇	四
金工科	二	〇	二
鑄造科	三	〇	三
漆工科	四	一	五
製版科	六	〇	六

臨時寫真科……………五〇……………五
 圖畫師範科……………二二(内特別學生二人) 二二
 合計……………一一三……………一一……………二二四

〔卒〕
 座業製作目錄

日本畫科

早春 本科 畠山 錦成 石川
 斜陽 同 遠藤 教三 東京
 流さるゝ教徒 同 長谷川龍三 神奈川
 河岸の午後 同 平岩 三郎 愛知
 後庭の秋 同 石田 吉次 高知
 少女と花 同 花村喜代藏 静岡
 島の女 同 津田 要作 愛知
 二階 同 松島松太郎 岡山
 妙なる音 同 石井喜三郎 千葉
 うらなひ 同 岩田 西介 東京
 二人の女 同 牧川 檜一 大阪
 ある村 同 小野 虎雄 群馬
 戀のあめつち 同 榎本 親智 東京
 風景二作 同 岩切 勇 鹿児島
 秋日和 同 辻田 重吉 大阪
 雪 同 小竹源一郎 富山
 春 同 山崎 良夫 廣島
 女 同 中村 久松 石川
 咏子の坐像 同 池田幸太郎 佐賀

兄弟 同 中井 三介 香川
 少女 選科 鍋島 紀雄 佐賀
 窓きわ 同 柳 晴一 東京
 琉球に残したる爲朝の傳説 同 野津 唯尹 島根

西洋畫科

よろこびの曲 自畫像 本科 伊原宇三郎 徳島
 静閑 同 市川 越夫 東京
 はぐみ 同 久保寺辰雄 東京
 善きW婦人像 同 北野 和高 宮城
 貴き隣人 同 石河 光哉 長崎
 自畫像 同 船橋 治彦 愛知
 母と子 同 寺田 良作 愛知
 落葉掻き 同 柏原 安治 大阪
 椅子によれる 〔同〕 米須 秀龜 沖繩
 まどゐ 同 鈴木千久馬 福井
 結髪裸婦 同 脇田 米一 愛知
 農夫 同 角田 祐吉 山梨
 暖日 同 横山 繁行 熊本
 老女と少女 同 前田 寛治 鳥取
 雪國の農家 同 上泉 二郎 山形
 春を讀えて 同 田口 省吾 秋田
 母 同 齋藤 保 東京
 早春 同 牧島 要一 群馬
 金扇を持てる 同 鈴木 亞夫 東京

母と子 自畫像

想ひ 同 本科 田中 繁吉 福岡

壺を持つ小娘 同 同 川村 一郎 東京

くもり日 同 同 片岡 銀藏 岡山

肖像 同 同 藤原 覺一 廣島

朝 同 同 明石 眞三 埼玉

島の或る朝 同 同 津田 耕造 福岡

おさなきものら 同 同 鈴木辰之助 神奈川

牧場にて 同 同 河南 拓 石川

聖母子 同 同 横山 與作 静岡

山羊小屋 同 同 服部不二彦 京都

早春 同 同 畑山 俊夫 高知

溪流のほとり 同 同 内田 了爾 埼玉

星靈の宿り 同 同 出口 文雄 福岡

母と侍童 同 同 岡村 浩一 埼玉

室隅にて 同 同 選科 劉 錦堂 臺灣

彫刻科 同 同 陳 洪 鈞 支那

塑造部 同 同 同 陳 洪 鈞 支那

近代人 同 同 同 陳 洪 鈞 支那

樂園 同 同 同 陳 洪 鈞 支那

安岸 同 同 同 陳 洪 鈞 支那

ひとり立つ女 同 同 同 陳 洪 鈞 支那

南國の砂場 同 同 同 陳 洪 鈞 支那

斷結無染

こゝろ

これから

圖案科

第一部

裝飾模様圖案

裝飾模様圖案

ステンドグラス圖案

緞帳圖案

花盛圖案

卓子懸圖案

カーテン圖案

染織壁掛圖案

第二部

三美術家俱樂部

地主の家

生の家と靈の家

金工科

額面(南蠻渡來圖)

額面(襲撃)

額面(寒山拾得)

手箱(花鳥圖)

目貫(二天)

本科 羽下 修三 新潟

選科 杉本 三郎 東京

同 弘田 伸身 高知

本科 大坪 重周 東京

同 德江 重武 東京

同 小川 三樹 静岡

同 上山 藹 東京

同 池本 治之 京都

同 小川森太郎 東京

同 綾部 謙吾 宮崎

同 岩崎 武夫 石川

本科 水谷 武彦 東京

同 土井 軍治 福岡

同 高麗 建城 石川

本科 鶴飼 康次 兵庫

同 黒木 爲義 香川

同 松村 治吉 富山

同 小宮 新吉 東京

選科 藤本 正義 東京

同 小澤小一郎 新潟

額面(雷神)

額面(雷神)

額面(雷神)

木彫部

鑄造科

靈夢 (納骨壺)

創造より審判へ (納骨篋)

聖き夕 (花瓶)

やくし (薬) 師

漆工科

菊竹模様香棚

蘇鐵の圖小衝立

春秋二題の圖手文庫

蓮花模様香筋

製版科

螺鈿入鎌倉彫香棚

本科 木田 梧樓 香川

同 蒔田三千歳^(福) 青森

同 山川 武雄 三重

本科 廣幡 武人 岡山

同 櫻井 繁香 富山

同 近藤 將照 群馬

同 溝口 三郎 東京

選科 宮井茂太郎 香川

本科 大江 恒吉 東京

同 持永 家貞 長崎

同 須田 孝之 富山

同 鴨 光三 香川

同 宇野先太郎 滋賀

同 木村 義郎 廣島

本科 有賀 質 東京

同 市川 正人 愛知

同 内野國治郎 山口

同 樋口 重親 福岡

同 松村 芳男 東京

同 豊秋

同 陽は沈む

同 唄なかば

圖書師範科

三浦 直政 大分

一井爲治郎 滋賀

神津 義治 長野

福田 寛^(森) 青森

星野金之助 埼玉

大東 喜一 奈良

田近 利夫 大分

藤井 清 廣島

永田 元 鹿児島

石橋 孟 長崎

松崎 卯市 福岡

飛田 昭喬 福島

牧田 實 埼玉

鎌倉芳太郎 香川

谷山藤四郎 岡山

古谷 虎武 和歌山

日野 義英 廣島

角田 耕 山梨

土屋 常義 長野

長谷川源三郎愛知

特別學生 李 景 綱 支那

同 馬 寶 恒 支那

○卒業製作及成績品陳列會^(讀) 三月二十五日午前八時より午後四時迄、本年度卒業製作陳列を一般に觀覽せしめたるが、雨天にも係らず頗る盛況を呈せり。尙本年度より新に圖書師範科の成績品の一部をも陳列したり

○新入學生 本年度入學志望者には三月廿七日より三日間撰抜試験を施行したる結果左記の如く入學を許可せり(四月七日官報發表)

豫備科

日本畫科

佐賀 山本 乙枝 東京 杉谷米太郎

静岡 下田照太郎 愛媛 村上 英夫

静岡 山岡 一 東京 水谷 道彦

西洋畫科

東京	三橋	武顯	同	石井義二郎	東京	宮崎	八一	山口	生重	貞一	
京都	大橋	一清	山梨	五味	幾藏	東京	森	則康	長崎	内川	泰助
佐賀	中尾	篤一	山形	佐藤長一郎	東京	香川	光廣	東京	横山	宗唯	
福岡	吉田	曹好	東京	中田	信	愛知	山田	順治	石川	二口	善雄
千葉	三橋	昇	同	小坂	勝人	福岡	井手	垂一	宮崎	楠本	繁
石川	谷山寅之介		鹿兒島	白尾	庚	新潟	山田	英一	大坂	松野永三郎	
東京	小堀	安雄	東京	冷泉	爲篤	千葉	新妻	秀郎	東京	原田	虎猪
山口	堀	儀一	山口	生重	貞一	同	齋藤	種臣	山形	林	敏夫
東京	宮崎	八一	東京	内川	泰助	德島	喜田	三五	東京	遠藤	春雄
富山	森	則康	富山	横山	宗唯	北海道	吉田	義雄	東京	中村	友治
東京	香川	光廣				兵庫	食垣	辰雄	鳥取	前田	利三
						同	水野	清	千葉	日暮	貞
						東京	後藤	禎二	福岡	渡邊	武比古
						鹿兒島	黑田	清德	石川	穴田	榮藏
						山形	齋藤	弘吉	福岡	後藤	茂之

彫刻科

塑造部

木彫部

圖案科

第一部

北海道	小川	智	神奈川	澤	健太郎
鳥根	三谷	長博	新潟	近藤	光紀
埼玉	片居	木良三	千葉	和田	清
奈良	阪本	靖春	山口	松村	六郎
滋賀	西田	正秋	東京	三宅	當也
福岡	磯野	英夫	新潟	金子	恒憲
京都	薄田	芳彦	東京	内田	巖
東京	天花寺	延朝	鹿兒島	有馬	純孝
同	田中	豐三郎	廣島	富樫	政人
新潟	地龜	輝治	東京	山本	稚彦
富山	本保	外次郎	栃木	關谷	充
香川	渡邊	弘行	東京	中島	誠淳
富山	竹内	辰藏			
東京	松村	健三郎	愛知	澤	安三
神奈川	五味	重義	山形	小松	榮
石川	寺前	爲一	東京	小池	巖
同	宮北	武雄	石川	宮澤	外與治
山口	吉村	武雄	東京	上田	幹一
香川	小池	福太郎	埼玉	内田	利一

石川 瀨尾 永敏

新潟 武樋 貞治

第二部 東京 小寺 十郎

愛媛 廉川 盈幸

北海道 侯野第四郎

同 山下 進

東京 藤田 巖

北海道 阿部 秀男

同 澤田 正巳

山形 高村 隆吉

金工科

山形 南齋 梯二

東京 飯田喜代鏡

富山 守田他三郎

青森 手塚 重治

東京 林 不二男

東京 藤本 茂

長野 兩角 雅次

鑄造科

東京 松崎福三郎

香川 横山 勝義

香川 橋本 宜安

漆工科

巖手 鈴木 壽二

石川 張間 喜一

東京 磯矢 陽

福岡 出口 正虎

香川 樋口 英一

福島 菊地 菊雄

圖畫師範科第一年級

岡山 出射 應太

埼玉 萩原 孝一

京都 田崎 捨三

東京 〔佐野 寿〕

鹿児島 福宿 光雄

福岡 河邊謙太郎

埼玉 上田 忠夫

鳥取 橋本 與家

静岡 中司 保郎

長崎 太田 清治

埼玉 原口幸治郎

山口 清瀬 勘一

愛知 本田 救助

東京 中山 正義

大分 佐藤於菟彦

埼玉 大木 善平

佐賀 大串 貞美

長野 百瀬 渥

熊本 坂本 高

新潟 加藤 一也

兵庫 小林 澄

沖繩 古謝 景明

○戸部助教の逝去 本校助教戸部隆吉氏は三月中旬胃腸病にて麴町区内幸町胃腸病院に入院加療中なりしが肝臓心臓脳病腎臟諸病を併發して同二十五日正午忽然として長逝せらる。聞くもの吃驚し啞然として云ふ所を知らず。君は明治十九年十一月能登國鹿島郡能登部村に生れ石川縣立工業學校圖案繪畫科を卒業し三十九年四月本校日本畫科に入學し、圖畫中等教員免許狀を受けて卒業し、青森縣弘前中學校教諭に赴任し大正二年三重縣立第三中學校に轉任、大正五年依願同校教諭を免ぜられ、上京して暫く東京市富士前小學校訓導を奉し、後本校美術史研究室助手兼教務掛を拜命、爾來東洋美術殊に佛敎圖像及彫刻史研究に没頭し、其研究論文を屢々諸雜誌に發表して斯界の注目をひけり。八年九月東洋彫刻史分擔を命ぜられ。九年一月東京女子高等師範學校講師を囑任せられ専ら東洋美術史を講ぜり。君の研究漸く深奥に入り、斯界先輩の囑目大に加はるの時、君忽然として遠逝す、人生爾來悲痛事多きも、君の生涯の如きは悲痛事中の悲痛事なり。然も年若き未亡人は四人の孤遺を擁して、獨り淋しく北海の浪むなしく寄する能登郡に偃居せらる。悲しみ極つて言ふ所を不知ざるなり。噫。

東京美術學校近事 二〇一。T・一〇・六・十一

○職員辭令

大正十年三月二十九日

助教授 畑 正吉

任東京美術學校教授 敍高等官七等(内閣)

同 三十日

講師 關野 貞

敍勳四等授瑞寶章

同 三十一日

助手 畑 保之

助手ヲ免シ更ニ講師ヲ囑託ス 但臨時寫真科實習擔任ノ事

講師 黒木 安雄

依願解囑

教授 矢代 幸雄

願ニ依リ講師囑託ヲ解ク (東京高等師範學校)

書記 北浦 大介

本校主任收入官吏書記足立芳五郎取扱ニ係ル帳簿金櫃ノ検査ヲ命
ス

休職教授 鹿島 英二

講師囑託ヲ解ク (桐生高等工業學校)

同 四月一日

關 保之助

京都府技手 岸 熊吉

本校生徒京都府修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス

奈良縣技師 阪谷 良之進

本校生徒(徒)奈良縣修學旅行ニ付臨時實地指導ヲ囑託ス

同 二日

講師 齋藤 佳藏

學術研究ノ爲奈良縣へ出張ヲ命ス 但往復共一週間ノ事

同 五日

書記 北浦 大介

奈良縣下へ出張ヲ命ス 但往復共十五日間ノ事

同 十日

學校長 正木 直彦

美術上調査ノ爲本日ヨリ一週間奈良縣下へ出張セラル

同 十八日

從五位 加藤 成之

本校講師ヲ囑託ス 但英語授業擔任ノ事

板垣 鷹穂

本校講師ヲ囑託ス 但西洋美術史授業擔任ノ事

東京美術學校助教授戸部隆吉在官中死亡ニ付月俸三ヶ月分給與
(文部省) 故戸部隆吉妻 てい

同 二十日

水谷 武彦

任東京美術學校助教授 圖案科第二部製圖及建築學擔任ヲ命ス

同 二十二日

學術研究ノ爲大分縣下へ出張ヲ命ス 但往復共二週間ノ事
教授 大村 西 崖

同 二十三日

帝國美術院會員(教授) 和田 英 作

歐洲へ出張ヲ命ス(文部省)

教授 鹿 島 英 二

右大正八年四月二十三日休職ノ處本日ヲ以テ休職期間滿了セリ

同 二十八日

教授 畑 正 吉

工藝彫刻研究ノ爲滿壹年間佛蘭西國伊太利國へ在留ヲ命ス(文部省)

同 五月三日

三重縣立神戸中學校教諭兼舍監 松 田 義 之

任東京美術學校助教 圖畫師範科自在畫及手工擔任ヲ命ス

教授 畑 正 吉

文部省在外研究員トシテ本日神戸港ヨリ乗船出發ス

同 四日

助教授 田 邊 孝 次

東京女子高等師範學校講師ヲ囑託ス

同 九日

雇 北 原 鹿次郎

本校雇ヲ解キ更ニ講師ヲ囑託ス 但彫刻科木彫實習擔任ノ事

(各 通)

朝 倉 文 夫
北 村 西 望



依囑製作 五獅子の香炉 帝室より法隆寺へ下賜 大正10年完成
図案 渡辺香涯、鍛金 石田英一、彫金 清水南山・海野清・滑川兼彦・滝本友太郎、鍍金 北原三佳

任東京美術學校教授 絛高等官七等(内閣) 彫刻科塑造實習擔

任ヲ命ス

同 十四日

中 川 萬次郎

東京美術學校雇ヲ命ス 教務掛ヲ命ス

同 十六日

講師 岡 田 起 作

教員檢定委員會臨時委員被仰付(内閣)

同 十七日

講師 北 原 鹿次郎

依願解囑

同 二十日

助教授 田 邊 孝 次

東洋彫刻史分擔ヲ命ス

教授 長 原 孝 太郎

圖案科ニ課スル西洋畫實習擔任兼務ヲ命ス

教授 水谷 鐵也

彫刻科實習擔任ヲ免シ鑄造科塑造實習並工藝部豫備科ニ課スル彫刻擔任ヲ命ス

師範科手工（塑造及木彫）擔任兼務ヲ命ス 圖案科第二部ニ課スル塑造實習擔任兼務ヲ命ス

教授 小林 萬吾

彫刻科ニ課スル西洋畫實習擔任兼務ヲ命ス

同 六月七日

彫刻科理事ヲ命ス

教授 建 畠 彌一郎

東京美術學校近事（二〇一—三。T・一〇・九・十二）

彫刻科理事ヲ免ス

教授 水谷 鐵也

○職員辭令

大正十年七月二十日

教授 畑 正吉

同 十日

教授 朝 倉 文夫

同 二十一日

講師 矢野 道也

紋從七位（宮内省）

同 北村 西望

授旭日小綬章（賞勳局） 大正四年乃至九年ノ功ニ依リ旭日小綬

同 二十七日

美術上調査ノタメ本日ヨリ五日間石川富山兩縣下へ出張セラル

章ヲ授ケ賜フ

依願解雇

雇 梅 本 馨

同 二十五日

教授 白濱 徹

學術實地指導ノ爲愛知縣三重縣奈良縣京都府及大阪府へ出張ヲ命ス 但往復共十日間ノ事

同 七月一日

紋勳五等授瑞寶章

同 三十一日

教授 久米 桂一郎

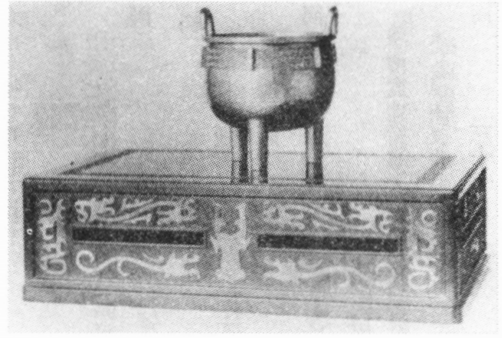
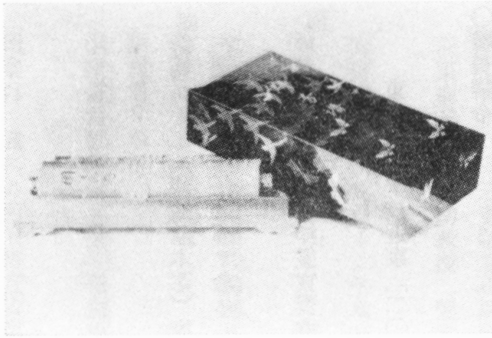
學術研究ノ爲新潟縣富山縣石川縣へ出張ヲ命ズ 但往復共二週間ノ事

教授 大村 西崖

講師 鈴木 信一

圖書館員教習所事務ヲ囑託ス（文部省）

書記 北浦 大介

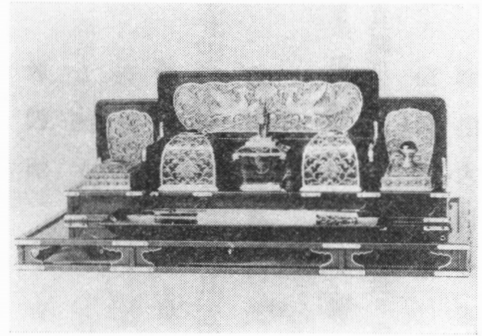


依頼製作 貧都五十年記念東京市献上品 大正10年完成

右上 黄金鼎（天皇へ）原型 大島如雲、鑄造 津田信夫、台座図案 千頭庸哉、髹漆 六角紫水

左上 絵巻物（皇后へ）水上泰生・土屋秀木筆、表装図案 島田佳矣

右下 文房具（皇太子へ）考案 渡辺香涯、彫金 海野清、髹漆 橋本市藏



勅任官ヲ以テ待遇セラル
同 十四日

同 岡田三郎助
同 和田英作
講師 矢野道也

教授 白濱 徹
講師 矢野道也
同 岡田信一郎
師範學校中學校高等女學校教員等講習會講師ヲ囑託ス（文部省）
助教授 松田義之

同上助手ヲ囑託ス（同）

書記 増井兼吉

同上事務取扱ヲ囑託ス（同）

○選科生募集 本年募集の選科生次の如シ

彫刻科塑造部 十人 同木彫刻部 四人

金工科（鍛金） 三人 鑄造科 三人

尙入學試験期日は九月十五日より施行

○圖書講習會 本年度本校に開催の圖書科講習會は十月二十四日より十一月五日迄にして、科目及講師次の如シ。

一、現代の圖書教育（十時）

東京美術學校教授 白濱 徹

一、現代の教授論（十時）

文部省督學官 森岡常藏

一、製版印刷の概要（十時）

東京美術學校講師印刷局技師 矢野道也

同 八月一日

教授 渡邊啓三

一、近代建築の趨勢(十時)
東京美術學校講師 岡田信一郎

除服出仕^(任)

講師 赤間運藏

○職員動靜
○藤島〔武二〕教授 電話小石川五一〇七番開通、面會日は毎日曜午前。

同 十日

書記 増井兼吉

○島田〔佳矣〕教授 七月初旬墓參の爲郷里金澤へ歸省。

除服出仕^(任)

教授 白山福松

○齋藤〔佳藏〕講師 先般電話高三三六九番開通、尙氏は六月末より三週間豫備召集の爲佐倉五十七聯隊に入營せらる。

同 二十日

同 古宇田實

○鈴木〔信一〕講師 七月下旬より千葉縣小濱へ避暑せらる。
〔矢字、結城、林、麻カ〕
○城林教授 七月下旬越中立山に登山せらる。

同 二十六日

講師 大澤三之助

東京美術學校近事〔二〇一四。T・一〇・九・十二〕

○職員辭令

大正十年七月二十三日

敍從四位 特旨ヲ以テ位一級被進 依願免本官
内匠寮御用掛被仰付 宮内省
但勅任官待遇

講師 北村耕造

東京美術學校雇ヲ命ズ 會計掛ヲ命ズ

教授 子爵 黒田清輝

同 三十日

講師 北村耕造

臨時教育行政調査委員被仰付 内閣

教授 結城貞松

同 九月二日

同 二十九日

講師 鈴川信一

神奈川県横濱市へ出張ヲ命ズ 但往復共一日間ノ事
同 十六日

教授 神 矢 教 親

伊太利ヲ在留國ニ追加ス 文部大臣

○撰科生の入學許可 本年度選科第一年入學志願者に對し九月十五日より三日間撰抜試験の結果左の如く二十日附を以て入學を許可せり。

西洋畫科

衛 天 霖	支那	張 翼	朝鮮
李 濟 昶	朝鮮	丁 衍 鏞	支那
金 貞 採	朝鮮	李 炳 圭	朝鮮

彫刻科塑造部

安達 貫一	島根	三國 慶吉	青森
郭胤 模	朝鮮	松根 多吉	愛媛
倉澤 量也 <small>〔世〕</small>	長野	三角 泰	東京
天花寺延朝	東京	木村石五郎	青森
白井 保春	東京	島津 良藏	京都
高橋 三平	岩手	服部仁三郎	徳島
牛島 七郎	熊本	作見 市松	青森
平岡 忠一	秋田		
同 上木彫部			

高見 嘉臣	富山	大橋 清	東京
中野 昂	福岡	松原 重正	富山
丸毛 小平	兵庫	坂本 七郎	熊本

金工科

河村 清治	大分	大塚 龜吉	東京
石井龜之助	東京		

鑄造科

三浦陶次郎	新潟	今井 千尋	和歌山
三島億三郎	新潟		

東京美術學校近事 (二〇一五。T・一〇・十二・二)

○職員辭令

大正十年九月十九日

(各 通)

工藝審査員會委員被仰付 内閣〔委〕

同 二十日

學校長	正 木 直 彦
教授	岡 田 三 郎 助
同	島 田 佳 矣
同	津 田 信 夫
同	講 師 大 澤 三 之 助
同	六 角 注 多 良
同	辻 村 延 太 郎
同	香 取 秀 治 郎
同	山 本 正 三 郎
教授	白 山 福 松
同	大 村 西 崖

(各通)

同 白濱 徵
同 島田 佳 矣

同 十月六日

書記 石井 敏

同 勅任官ヲ以テ待遇セラル 内閣
二十二日

陸軍歩兵中尉正八位勳六等 和田 秀^(季) 雄

同 帝國美術院事務ヲ囑託ス 文部省
十一月十一日

本校講師ヲ囑託ス 但體操及彫刻實習擔任ノ事 教務掛兼勤ヲ命
ス

同 在留期間四ヶ月間延期ノ件許可ス
十四日

同 除服出仕
二十日

同 日

教授 藤島 武二
同 結城 貞松
同 長原 孝太郎
同 小林 萬吾
同 松岡 輝夫
同 建島 彌一郎
同 朝倉 文夫
同 北村 西望

同 除服出仕
二十日

同 本年十月五日付願海外旅行ノ件許可ス^(本)

同 文官分限令第十一條第一項第四ニ依リ休職ヲ命ズ 文部省

同 東京美術學校生徒監ヲ免ズ 同

同 幹事ヲ免ズ

同 支那旅行中東洋美術ニ關スル調査ヲ囑託ス

同 亞米利加合衆國ヲ在留國ニ追加ス

同 二十一日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

同 二十日

教授 藤島 武二
同 結城 貞松
同 長原 孝太郎
同 小林 萬吾
同 松岡 輝夫
同 建島 彌一郎
同 朝倉 文夫
同 北村 西望

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

同 三十日

帝國美術院美術展覽會審査委員被仰付 内閣

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

教授 大村 西崖

(各通)

同 白濱 徵
同 島田 佳 矣

同 紋正五位 宮内省

教授 神木 健介

學術研究ノ爲兵庫縣廣島縣へ出張ヲ命ズ 但復^(在)復共五日間ノ事

教授 津田 信夫

教授 津田 信夫

教授 津田 信夫

學術研究ノ爲石川縣富山縣へ出張ヲ命ズ 但往復共一週間ノ事
同 二十五日

文部省視學委員ヲ命ス 文部省

文部省視學委員 白濱 徵

茨城縣へ出張ヲ命ズ 文部省

同 二十六日

助教 田邊 孝次

學術研究ノ爲京都大阪奈良二府一縣へ出張ヲ命ズ 但往復共五日
間ノ事

○職員動靜

○森田〔龜之助〕助教 府下下落原中原六三〇へ轉居せらる。

○齋藤〔佳藏〕講師 本郷區龍岡町三十一番地へ轉居せらる。

東京美術學校近事 [二〇一六。T・十一・一・三〇]

○職員辭令

大正十年十月二十七日

學校長 正木 直彦

美術ニ關スル調査ノ爲メ本日ヨリ一週間大阪及石川縣へ出張セラ
ル

同 十一月一日

教授 結城 林藏

同 森 芳太郎

助教 長口 宮吉
同 小林 龜五郎
同 戸塚 暢夫

學術實地指導ノ爲群馬縣へ出張ヲ命ズ 但往復共三日間ノ事

講師 久米 福衛

同 成田 隆吉

同 畑 保之

本校生徒修學旅行ニ付群馬縣へ出張ヲ命ズ 但往復共二日間ノ事

同 十五日

教授 白濱 徵

學術研究ノ爲神奈川縣へ出張ヲ命ズ 但往復共二日間ノ事

同 二十八日

講師 大澤 三之助

西洋建築史及製圖實習教授ヲ増囑ス

同 二十九日

教授 水谷 鐵也

^(金)全工科ニ課スル塑造實習擔任兼務ヲ命ズ

同 三十日

講師 菅原 教造

從前擔任ヲ解キ自今更ニ美學授業一週二時ヲ囑託ス

同 十二月十日

助教 干頭 庸哉

敘從七位(宮内省)

同 二十日

教授文部省在外研究員 矢代 幸雄
大正十年十二月一日ヨリ學資及旅費全額ヲ給ス

講師 高橋 健 自
任帝室博物館鑑査官 敍高等官六等(内閣)

帝室博物館歴史課長ヲ命ズ 帝室博物館學藝委員被免(宮内省)

同 二十六日

教授 久米 桂一郎

佛國へ出張ヲ命ズ(文部省)

同 二十八日

教授 小堀 鞆 音

同 川合 玉堂

敍正五位(宮内省)

○職員動靜

○大村〔西崖〕教授 渡華の目的を達成せられたる同教授は一月十日

二日上海出發同十七日歸京せらる。

○北村〔西望〕教授 今般電話小石川五三二番開通。

○久米〔桂一郎〕教授 日佛美術交換展覽會の用務を帯び一月十日

横濱解纜の三島丸にて渡佛せらる。

○合田〔清〕講師 舊臘府下世田ヶ谷村太子堂三三二六へ轉居

○田邊孝次 客臘小石川區久堅町七四ノ二四番に轉居(電話呼出小

石川八三七番)

関連事項

① 女子部開設要請

既出年報記事に「将来施設上重要ト認ムル件」に明らかなように、大正十年より本校は女子部新設の要請を始めた。同年二月二日の各科主任会議において、完全な男女共学制ではないものの女子部を付設して施設を男子部と共用し、教員は両部兼務というかたちで女子の入学を認める決定がなされ、その結果、同年同月十七日に本校は文部大臣に

東京美術学校規則中改正ノ件伺

從來本校ニ於ケル生徒教養ハ男子ノミニ限ラレ居候處近時女子教育ノ進歩發達著シク女子ニシテ進ンデ高等専門ノ学校ニ入学ヲ希望スル者益々多キヲ加フルト同時ニ一面ニ於テ女子ノ繪畫其他ノ美術ニ関スル研究漸ク旺盛ニシテ本校ノ如キ夙ニ女子ノ入学志願者ノ最モ尠カラザルヲ認ムル所ナリトス 依テ此際本校ニテハ時世ノ進運ト女子教育ノ發達トニ鑑ミ獨リ男子ノミナラズ女子ノ志望者ヲモ收容シテ共ニ美術教育ノ惠澤ニ浴セシメントシ此主旨ヲ以テ別紙案ノ如ク本校規則中ニ改正ヲ加へ本年四月ノ新學年ヨリ實施致度候ニ付此段仰高裁候也

(自明治四十四年一月本校規則關係書類^{教務掛}、別紙省略)

という上申を行なった。これは美術界にとっても大事件であったため、強い関心を呼んだ。『美術之日本』第十三卷第二号(大正十年二月)は次のように報じている。

美校を女子に開放